

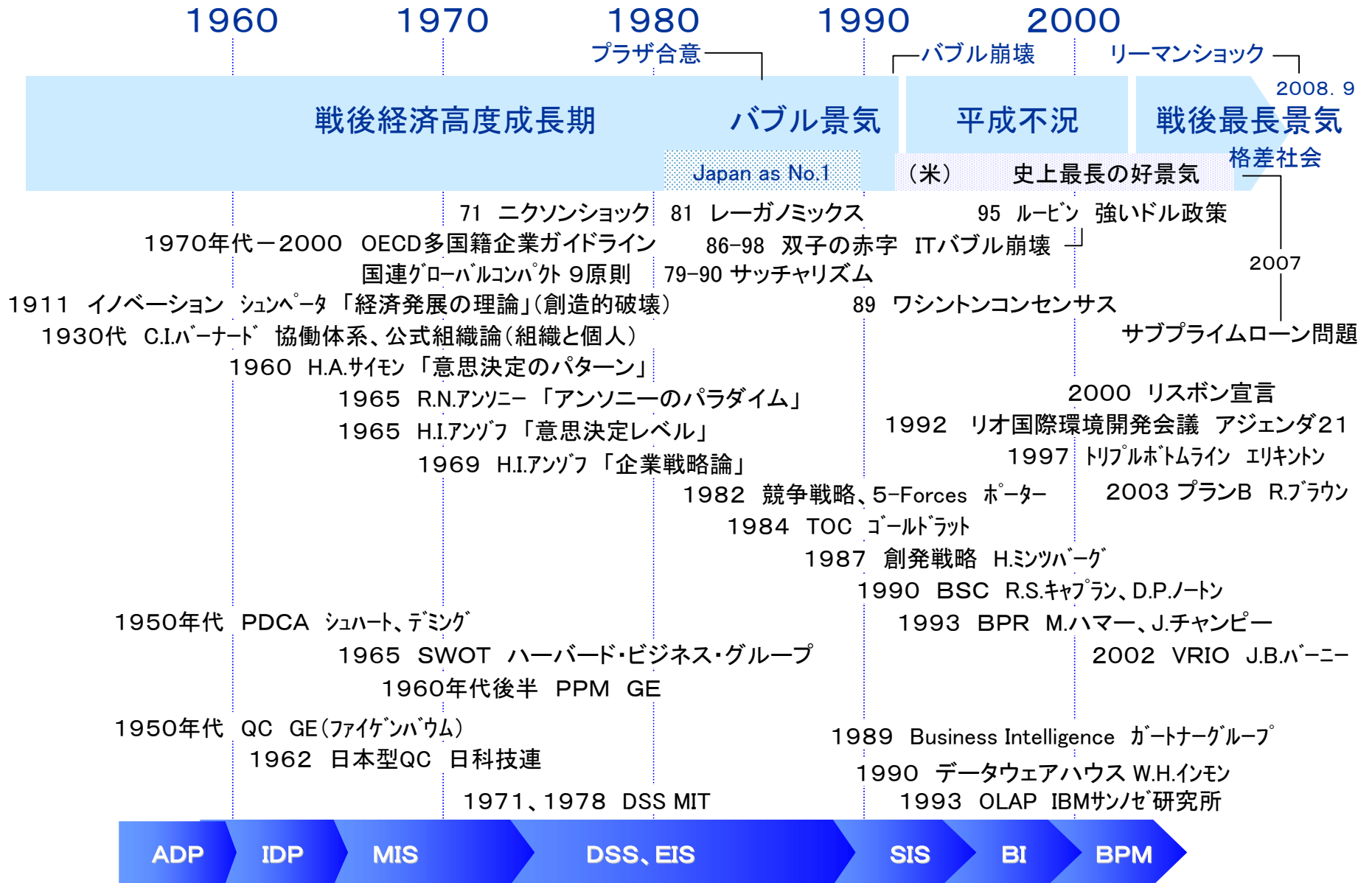
「情報活用の過去、現在、未来」

～ ワークショップ「情報をめぐって」～
パネルディスカッション資料

2009年11月28日

サステナブル・イノベーションズ株式会社
池邊 純一

情報活用の過去（参考資料）



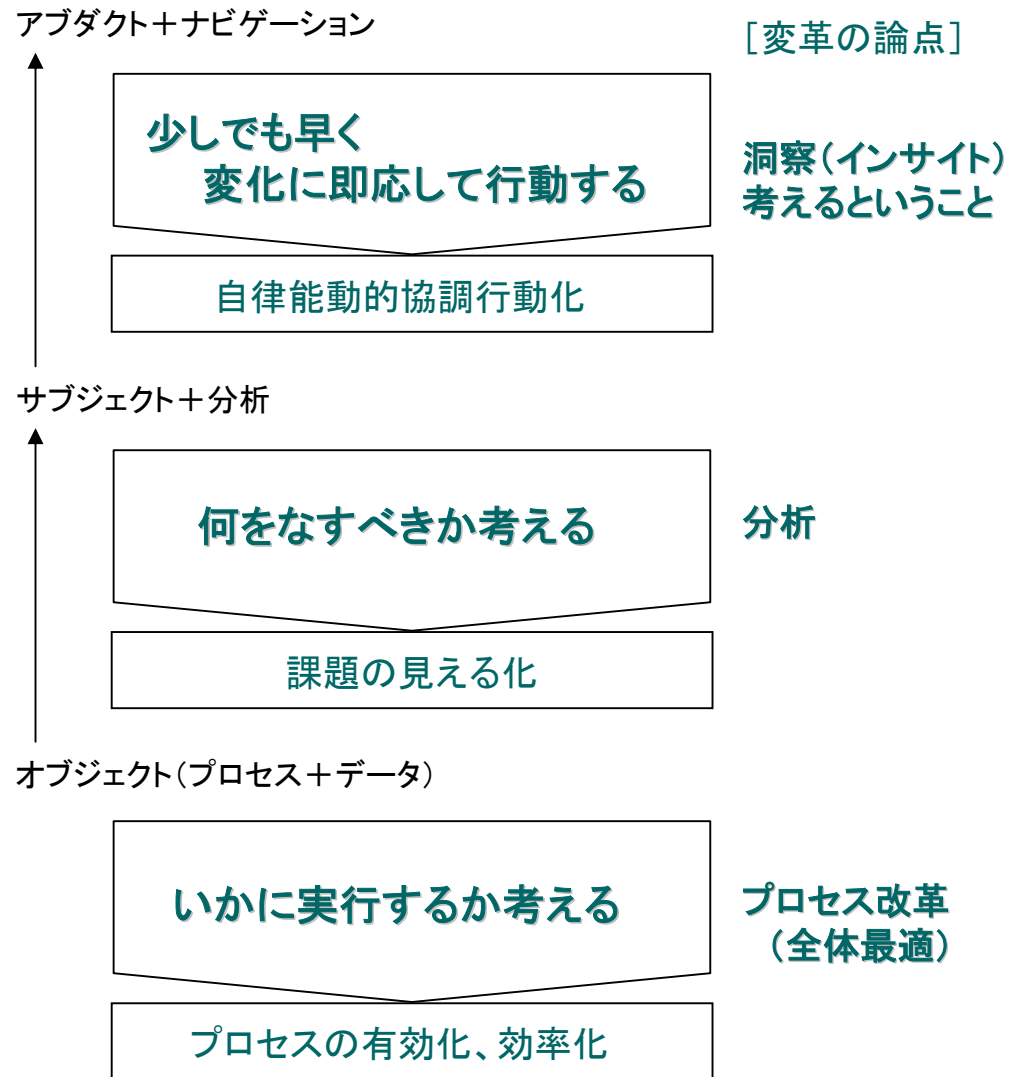
・51 UNIVAC、 64 IBM/360、 68 UNIX、 70 ダイナブック、 85 Windows、 88 インターネット、 91 Linux、 04 Web2.0

情報活用の発想の転換

[情報化の変遷]

- (1) 機械化(自動化)
 - ・業務の標準化、合理化
 - ・効率化、高品質化、低コスト化
 - ・プロセスの公正化(J-SOX対応)
- (2) 現場で既に起きたことに
 少しでも早く気がついて施策を打つ(構造情報)
 - ・市場、顧客、現場、マネジメントの連携
 - ・見える化
 - ・PDCAによる対応
 (フィードバックループの短サイクル化)
- (3) 外部の変化に、
 少しでも早く気がついて施策を打つ(非構造情報)
 - ・変化に即応して、全体として連携して
 打つべき施策を展開する
 - ・変化の本質を考えて行動する

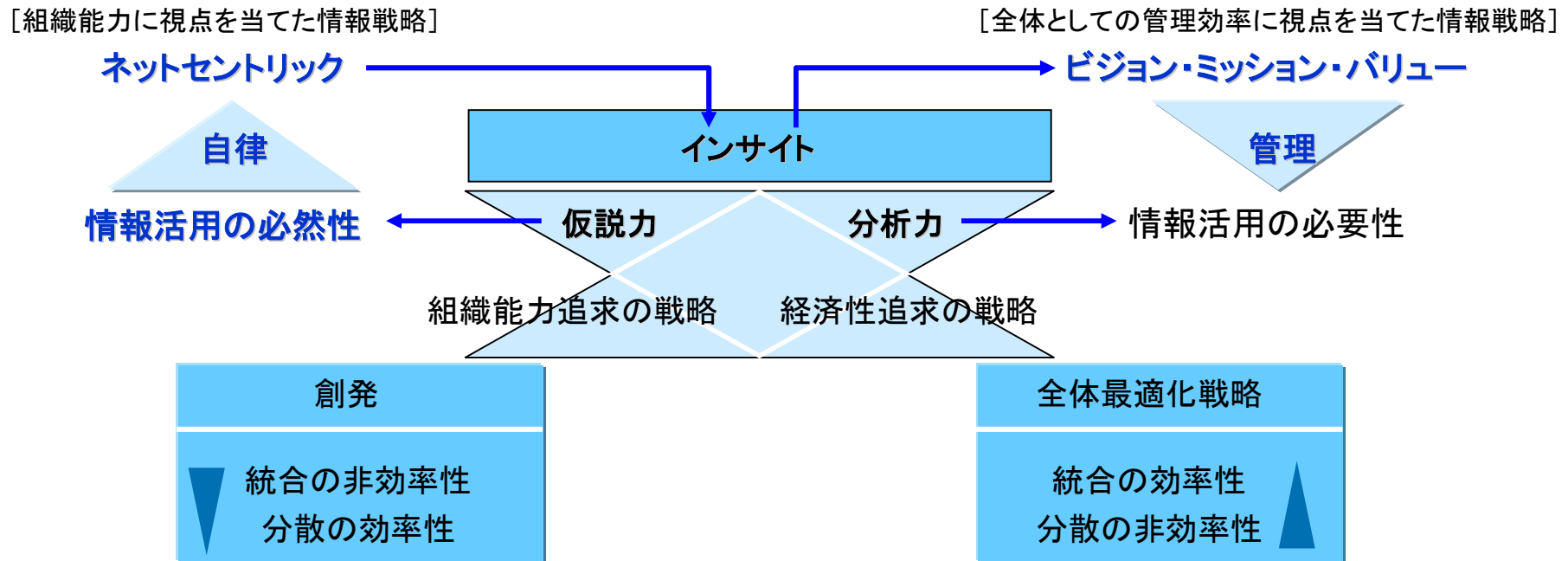
- ① 「見える化」から「聴る化」へ
- ② 「分析プロセス」から「仮説検証プロセス」へ
- ③ インサイトへ



聴い: 感覚が鋭い。頭の働きがすぐれている。

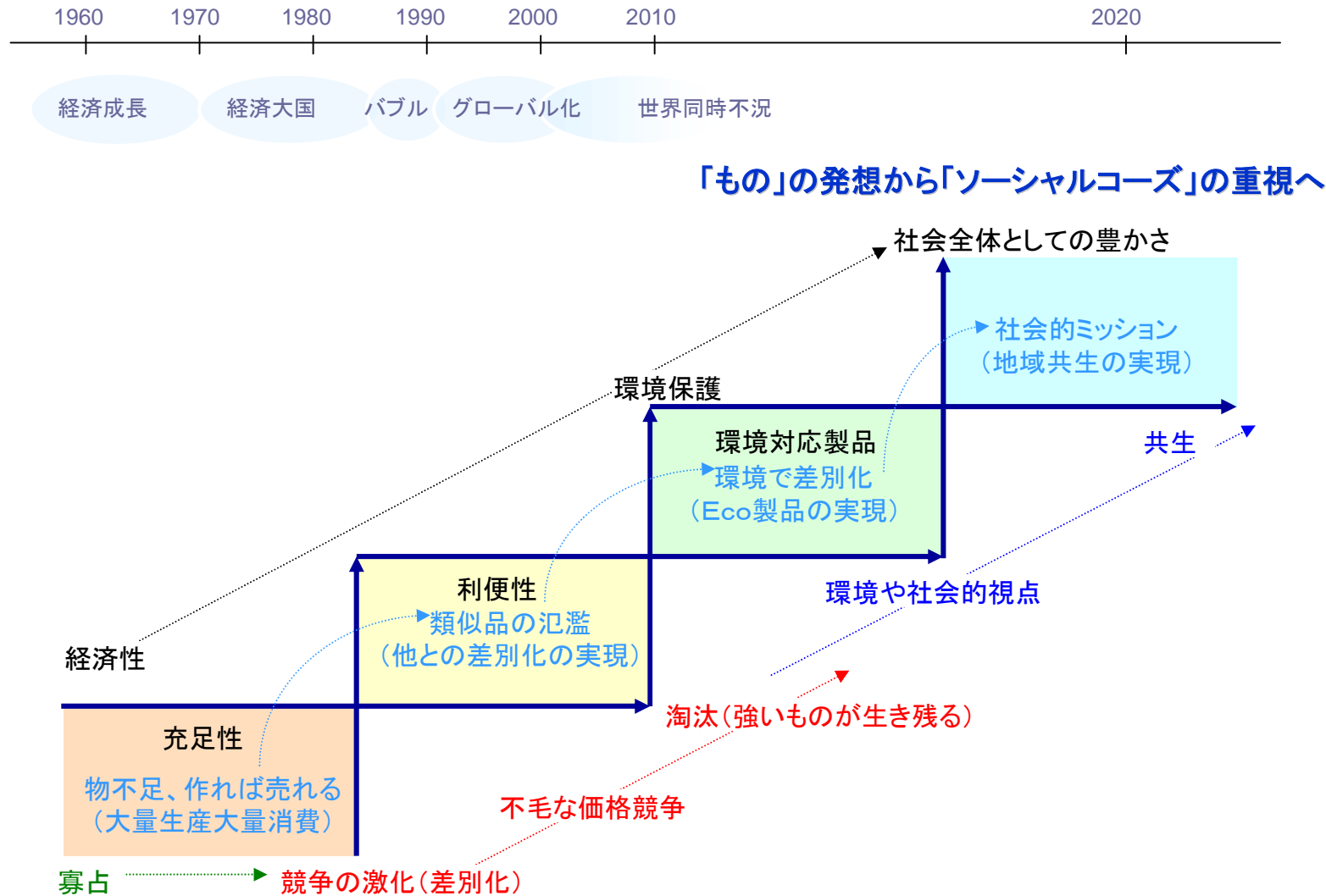
情報活用の発想の転換（補足）

1. 構造情報を「蓄積する仕組み」「検索する仕組み」は、新たな知識を含まない。
2. クラウドの不特定多数からの大量情報は、信憑性や品質に乏しく経営に供するに値しない。

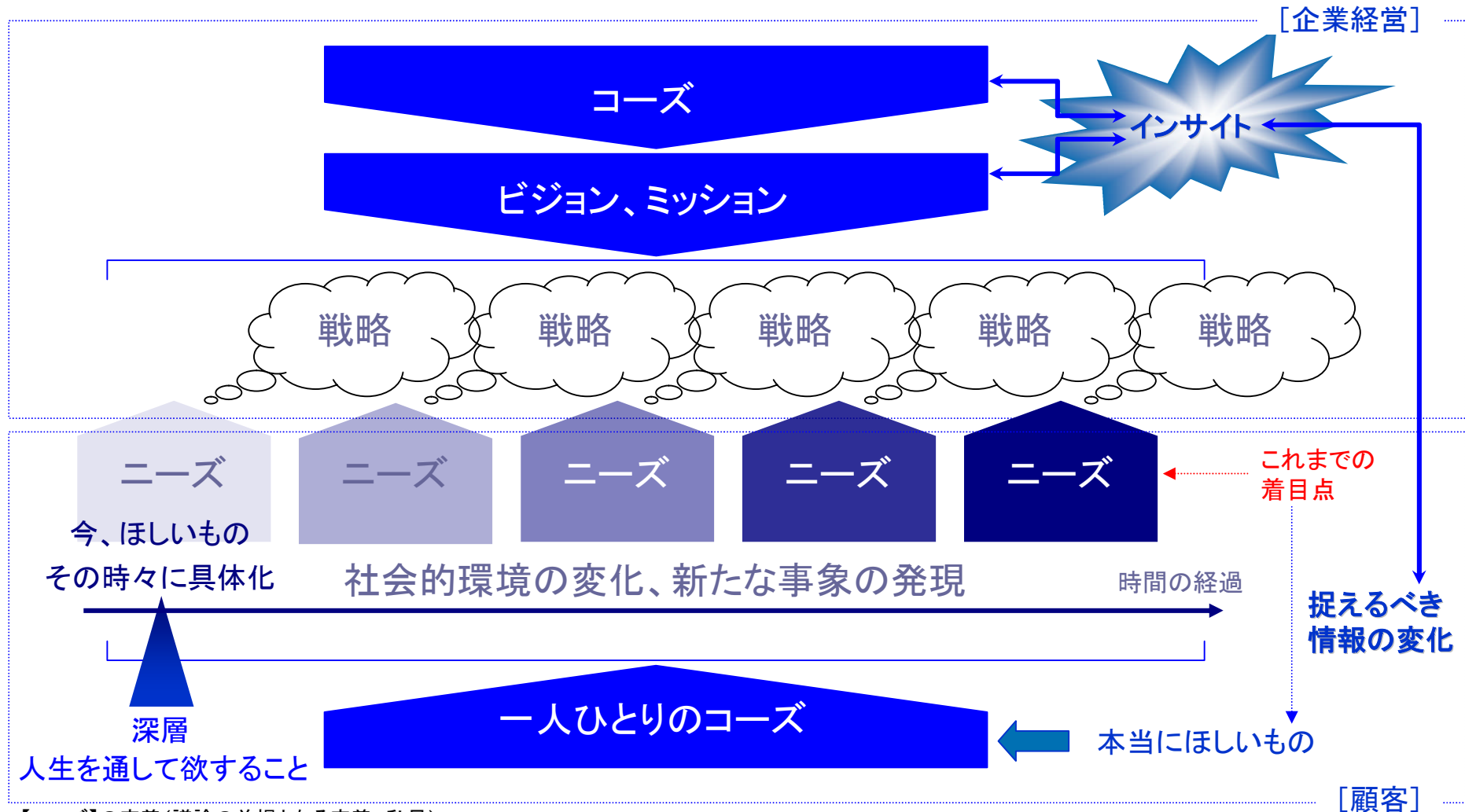


1. 情報のフラット化
2. 多様な要因が複合する経営環境
3. 多様な感性と専門性を持つ人々の個を重視する社会へ

社会の変化（情報ニーズの変化）



ニーズからコースズへ、そしてコースズのつながりへ



【コースズ】の定義(議論の前提となる定義、私見)

一般に、「コースズ」とは、『(行動・感情の)理由,根拠,動機,わけ。(社会的な)理想,(…の)目的,大義,目標,主義,主張,信条』(プログレッシブ英和中辞典、第3版、小学館)と訳される。

- 一人ひとりが持っている価値観などにより形成される、その時々々の環境などの変化に応じて遷ろうものではなく、長期にわたり醸成されながら追い求められる普遍的に宿る、その個人のなかにある一種の思いである。
- 「ニーズ」は環境や状況が変わることで変化するものである。コースズを背景として、その時々々に必要となるものが「ニーズ」である。
- 企業経営の場合、経営者自身のもつコースズが、企業の経営理念として表出し、ミッションとして組織のなかで展開されることによりで具現化されていく。